

ウイルス感染症が多発しています。

★今年は寒暖の差が大きく、1月以降に県内でウイルス病が多発しています。その他、集団で呼吸器病がみられる農場があります。

★ウイルス感染症は1. 病原体 2. 環境 3. 宿主(牛) の組み合わせによって発生が起こります。

<発生事例>

農場	地域	ウイルス	症状
和牛繁殖農場	飛騨地域	牛コロナウイルス病	血様下痢 (育成牛・成牛)
乳肉複合農場	西濃地域	牛RSウイルス病	発熱・鼻汁 (子牛・成牛)
酪農	中濃地域	牛RSウイルス病	発熱・鼻汁(子牛)

★外部からウイルスを持ち込まないようにしましょう

→不要、不急な関係者以外の農場への立入を制限してください。踏み込み消毒層や農場専用長靴を設置しましょう。また、導入牛の隔離飼育を行ってください。

★畜舎の換気不良はありませんか？

→換気が悪いと、畜舎にアンモニアやホコリがたまり、喉・気管の粘膜を障害し、ウイルスが感染しやすくなります。

★適切なワクチン接種を行いましょう

→ワクチンプログラムを再確認してください。
ワクチン接種のタイミングによって効果が異なります。

※詳しくは、獣医師若しくは家畜保健衛生所へご相談ください。

★ストレスを軽減しましょう

→密飼いを避け、汚れた敷料のこまめな交換を行ってください。
子牛を寒さから守る対策(保温ランプの設置やカウジャケットの着用など)もしっかりと行いましょう。



などの対策をお願いします。

※また、平成28年度分「定期報告書」の提出をお願いします！

異状を発見したら、すぐに家畜保健衛生所へ連絡してください。

※平日時間外(午前8時30分～午後5時15分以外)や休日の電話に対しては、「電話交換業務が終了しています。」に続く、「**お急ぎの場合は、そのまま「1番」**をダイヤル願います。」の案内メッセージに従って対応をお願いします。

飛騨家畜保健衛生所

TEL(0577)33-1111 FAX32-9019

